

「発達障害者支援の今後の方向性(案)」の補足説明について

1 経緯

発達障害者支援センター開設後3年という一区切りが経過したところですが、現状においても、新たな問題点や課題を関係者から聞いているところです。

そこで、本市における発達障害者支援を前向きに推進するためには、こういった問題点を明らかにするとともに、今後のあるべき方向性を提案し、関係者でこれを共有する必要があると考えられます。

このことから、「発達障害者支援の今後の方向性」と題し、障害者自立支援課と同センターが協働して提案書の素案を作成し、これを材料として、本協議会において議論を重ねていきたいと考えています。

2 位置付け

「千葉市発達障害者支援連絡協議会」において関係者の議論を経て、発達障害者支援の今後の方向性をまとめたものを市に提案するものです。したがって、市の決定事項ではありません。

3 提案書の効力

本連絡協議会は、地方自治法に基づく附属機関ではないため、市の施策に関する諮問機関の位置づけではないことから、本提案書の効力は絶対的なものではありません。

しかしながら、本市の発達障害者支援の在り方を総合的に議論する同協議会としての意見であることから、発達障害者支援を推進する本市の立場においては、本提案書を最大限尊重し、今後の施策を展開するよう努めるべきものです。

4 本日及び今後の流れ

(本日)

事務局から、本提案書の素案を説明後、委員の皆様からご意見を伺います。

(今後)

所属機関に持ち帰り検討いただき、別紙にてご意見ください。提出期限については、平成23年2月末日までとします。

本日のご意見と、別紙ご意見票の内容をとりまとめ、本日の素案に盛り込んだものを次回の協議会(5月末～6月上旬頃を予定)で再度お示しします。(次回で確定できるとは限りません)

障害者自立支援課及び発達障害者支援センターにおいては、確定された提案書を参考に、関係機関と連携を図りながら、それぞれの取り組みが実施可能かどうかを研究するとともに、計画的かつ前向きに、体制整備をすすめるよう努めます。